

街路樹

保健体育科の視点と実践例紹介



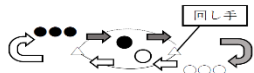
一人一人を大切に教育

新学習指導要領では、体育科・保健体育科における改善の具体的事項として、「全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る」(小学校)「体を動かす楽しさや心地よさを味わわせる。(中略)学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるようにする」と示されています。

そのような授業を具体的にイメージできる機会が、11月に実施した授業力向上講座Ⅱ体育・保健体育(講師:筑波大学附属小学校眞栄里耕太先生)の中にありました。講座後半の長縄跳びは、①かぶり跳び(上から回ってくる縄を跳ぶ)での「早回し跳び」、②むかえ跳び(下から回ってくる縄を跳ぶ)、③ひょうたん跳び(1本の縄を二人で同時に跳ぶ)の順で行いました。①は得意な人が多く、そうでない人はプレッシャーを感じながら取り組むことが多いようですが、②③には初めてチャレンジするという人が多く、「前の人に続いて縄に入る」ことを目標に、ゆっくり回したり、なわに入るタイミングで声を出したりして練習を進めました。次第に5、6、7...と数える声が大きくなり、記録が伸びると歓声を上げてハイタッチ。不ずと心拍数も上がり、先生方の額には汗が見られました。

児童生徒の発達の段階や運動の特性を踏まえ、いつもの授業に少しずつ違った発想を取り入れてみませんか。子どもたちに多様な楽しみ方を共有させ、その先にある体力向上を目指していきましょう。

＜ひょうたん跳び＞
1本の縄に2人同時に入って跳びます。



「すべての児童が『わかる』『できる』授業づくり～ユニバーサルデザインの視点を取り入れて～」を主題として、研究を進めている市内のN小学校の校内研修に参加させていただきました。次のような研究主題設定の理由で、授業力向上に励んでいました。

児童一人一人が生き生きと学習できるよう工夫したり、居場所作りをすることは、児童に自己存在感や自己有用感を味わわせるとともに、自尊感情を育て、自己実現を図ることにつながる。これらのためには児童一人一人が「わかる」「できる」授業づくりが不可欠である。(略)そのためには教師が児童の状況を的確にとらえ、「個に応じた指導」が必要である。そして、この「一人一人を大切に」児童を見取ることは特別支援教育との関連が強いと言える。

具体的には、次の手順で取り組んでいました。

1 事前研究会
・参加者が授業者に対して「何を身に付けさせたいのか?」「何を学ばせたいのか?」を問いかけ、授業の目標と目指す児童の姿を明確にする。

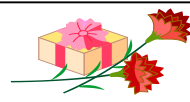
2 授業
・全ての教員で配慮の必要な児童を中心に、児童一人一人の言動や表情などを記録する。

3 事後研究会
・目指す児童の姿と授業での児童一人一人の姿を照らし合わせ、「学べていたか?」「支援や手立ては有効であったか?」を視点として、良かった点、改善点を協議する。

このように授業中の児童一人一人の姿をしっかりと見取り、児童一人一人が「学べていたか?」を評価することが、児童のためのより良い授業づくりにつながると思います。



初任研メンター方式について



社会の急激な変化や価値観の多様化に伴い、解決すべき教育課題が高度化・複雑化するとともに、教員の大量退職・大量採用が進んでいることから、学校における諸課題に適切に対応できる人材育成が急務となっています。

質の高い教育活動を展開するためには、先輩から後輩へ指導技術や経験を伝えながら、共に学ぶことを通して、職能成長を図る必要があります。

今年度から、本センターでも初任者研修にメンター方式を取り入れて研修を行っています。メンター方式とは、「メンター(先輩教員)がメンティ(後輩教員)のキャリア形成と心理的・社会的側面に対して支援する人材育成のシステム」のことです。

その中でも効果的な方法が、「メンター研修」です。少人数でお互いに課題を相談・共有・助言し合うことで学び合い、職能を高めます。対話を重ねる中で、互いの関係も深まり、相談しやすい雰囲気も生まれます。

本年度市内4校の小学校では、初任者や講師、若手の先生数名とベテランの教員が集まり、メン

ター研修を放課後に行いました。

テーマは、「運動会に臨む心構え」「通知表の所見の書き方」など学校行事に関連付けた内容や困っていること、相談したいことを中心に、メンティのニーズに応じて工夫して運営されています。

＜メンター研修の参加者の声＞

○テーマをもとに、先生方の多様な意見に触れることができるため、視野を広げる貴重な機会となっている。

○自分が抱えている問題が他の先生方も同じように悩んでいることに気付くことができ、安心感を感じることがあった。このような機会があることで初任者の先生は気負わずに教育活動に専念することができると思う。

○講師にとってなかなかない研修の機会である。話しやすい雰囲気とても有意義な時間となった。

このようなOJT研修は、今後さらに重要になると考えられます。共に考え、学び合える集団となるような学校を目指していきたいものです。

